

注3

大学番号：私230

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

四天王寺大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人四天王寺学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 IR・戦略統合課

職名・氏名 課長 マツナガ ケンジ
松永 賢治

電話番号 072-956-0062

（夜間） 072-956-3181

F A X 072-956-9893

e-mail ircenter_n@shitennoji.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒583-8501
大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タキトウ ソンジュン) 瀧藤 尊淳 (平成25年4月)		
学長	(イワオ ヒロシ) 岩尾 洋 (平成28年4月)		
学部長	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (平成31年4月)		
学科長等	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	80 人	— 年次	320 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	1.05 倍	—	
志願者数	1,031 () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	996 () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	140 () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	84 () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.05												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	84 [-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			84 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	84人	0人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
合計	84人	0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{84} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	仏教Ⅰ(瞑想)	1前	1								1	
	仏教Ⅱ(写経)	1後	1								1	
	仏教概説	1前	2								1	
	現代社会と人権小計(4科目)	1後	2								1	
共通教育科目	生命と環境	生命の科学	1前	2								1
		環境の科学	1前	2								1
		生物学	1前	2								1
		科学技術と社会	1後	2								2
	こころと思想	仏教実践演習	2後	2								1
		聖徳太子概説	2前	2								1
		心理学Ⅰ	1前	2								1
		心理学Ⅱ	1後	2								1
		哲学入門	1前	2								1
		現代思想入門	1後	2								1
		構造主義入門	2前	2								1
		社会と文化	現代社会と仏教	2前	2							
	日本国憲法		1前	2								1
	法学入門		1後	2								2
	政治学		1前	2								1
	文化人類学		2後	2								1
	ジェンダーの社会学		1後	2								1
	仏教芸術入門		2後	2								1
	現代日本の文化と社会		1前	2								1
	健康と福祉	地域活性化概論	2前	2								1
		スポーツⅠ	1前	1								2
		スポーツⅡ	1後	1								2
		体育講義	1前	2								1
		社会福祉概論	1前	2								1
		社会福祉行政	2前	2								1
		児童福祉論	1後	2								1
		老人福祉論	2後	2								1
		障害者福祉	2後	2								1
		レクリエーション論	2前	2								1
	情報科学	情報処理演習Ⅰ	1前	2								1
		情報処理演習Ⅱ	1後	2								1
		情報システム	2前	2								1
		データ収集分析	2後	2								1
		情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2前	2								1
		統計学	2前	2								1
	グローバルコミュニケーション	先端技術	1後	2								2
		上級英語Ⅰ	1前	1								1
		上級英語Ⅱ	1後	1								1
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1								1
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1								1
		ドイツ語Ⅰ	1前	1								1
		ドイツ語Ⅱ	1後	1								1
		フランス語Ⅰ	1前	1								1
		フランス語Ⅱ	1後	1								1
		中国語Ⅰ	1前	1								2
	中国語Ⅱ	1後	1								2	
	韓国語Ⅰ	1前	1								1	
	韓国語Ⅱ	1後	1								1	
小計(48科目)	-	8	74	0	0	0	0	0	0	0	33	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1									1	
	和の精神Ⅱ	1後	1									1	
	仏教概説	1前	2									1	
	現代社会と人権小計(4科目)	1後	2									1	
共通教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2								1	
		環境の科学	1前	2								1	
		生物学	1前	2								1	
		科学技術と社会	1後	2								2	
	こころと思想	仏教実践演習	2後	2									1
		聖徳太子概説	2前	2									1
		心理学Ⅰ	1前	2									1
		心理学Ⅱ	1後	2									1
		哲学入門	1前	2									1
		現代思想入門	1前	2									1
		構造主義入門	2前	2									1
		社会と文化	現代社会と仏教	2前	2								
	日本国憲法		1前	2									1
	法学入門		1前	2									2
	政治学		1前	2									1
	文化人類学		2後	2									1
	ジェンダーの社会学		1前	2									1
	仏教芸術入門		2後	2									1
	現代日本の文化と社会		1後	2									1
	健康と福祉	地域活性化概論	2前	2									1
		スポーツⅠ	1前	1									3
		スポーツⅡ	1後	1									3
		体育講義	1前	2									1
		社会福祉概論	1前	2									1
		社会福祉行政	2前	2									1
		児童福祉論	1後	2									1
		老人福祉論	2後	2									1
		障害者福祉	2後	2									1
		レクリエーション論	2前	2									1
	情報科学	情報処理演習Ⅰ	1前	2									2
		情報処理演習Ⅱ	1後	2									3
		情報システム	2前	2									1
		データ収集分析	2後	2									1
		情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2前	2									1
		統計学	2前	2									1
	グローバルコミュニケーション	先端技術	1前	2									2
		上級英語Ⅰ	1前	1									3
		上級英語Ⅱ	1後	1									3
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1									1
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1									1
		ドイツ語Ⅰ	1前	1									1
		ドイツ語Ⅱ	1後	1									1
		フランス語Ⅰ	1前	1									1
		フランス語Ⅱ	1後	1									1
		中国語Ⅰ	1前	1									2
	中国語Ⅱ	1後	1									2	
	韓国語Ⅰ	1前	1									1	
	韓国語Ⅱ	1後	1									1	
小計(48科目)	-	8	74	0	0	0	0	0	0	0	41		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	身体 <small>のしくみと働き</small>	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
		人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	疾病 <small>からの回復過程</small>	疾病と治療Ⅰ	1後	2								1
		疾病と治療Ⅱ	1後	2								1
		疾病と治療Ⅲ	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
	健康 <small>と生活</small>	生活健康論	1前	1		1						
		精神保健	2前	2		1						
		疫学	2後	2								1
		保健行動論	1後	2			1					
	社会 <small>保障と健康政策</small>	社会保障制度	1後	2								1
		国際保健学	2前	2								1
		保健統計学	2後	2								1
		医療と経済	3前	2								1
		保健行政論	1後	2								1
	看護 <small>の基盤</small>	看護概論	1前	2		1						
		看護の歴史	2前	2								1
		生活支援論	1前	2		1						
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1			1					
		看護と倫理	2前	2		1						1
		コミュニケーション論	1後	1				1				
		初期実習Ⅰ(生活をみる)	1前	1			9	7	6	7		
		初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	1前	1			9	7	6	7		
	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1前	1			9	7	6	1			
	療養 <small>生活支援看護</small>	療養生活支援論(成人・高齢者)	2後	2		2						
		フィジカルアセスメント	1後	1		1	2	1				
		生活支援技術演習	2前	1		1	2	1				
		看護治療技術演習	2前	1		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習Ⅰ	3前	3		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習Ⅱ	3前	2		1	1	1	1			
		療養生活支援基礎実習	2後	2		1	7	6	7			
		療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)	3後	2		2	1	1	1			
		療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)	3後	2		2	1	1	3	1		
		療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題)	3後	2		1	1		1	1		
	女性 <small>の健康と成育支援看護</small>	女性の発達課題と健康	2後	1			1					
		母性生活支援技術演習	3前	2		1	1	1	2			
		母性生活支援実習	3後	2		1	1	1	2	1		
成育生活支援論		2後	1		1							
成育療養生活支援技術演習		3前	2		1		2					
コ <small>ミュニティにおける継続的な看護</small>	在宅療養生活支援論	2前	1		1							
	在宅療養生活支援技術演習	2後	2		1			1				
	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2		1							
	精神健康と生活支援	2後	1		1			1	2			
	精神療養生活支援技術演習	3前	2		1		1	2				
	家族の健康課題と生活支援	2前	1		1							
	産業保健論	2後	2			1						
	学校保健論	2前	2								1	
	グローバルヘルスと国際看護	4前	2			1						
	災害看護支援論	2後	2		1							
	在宅療養生活支援実習	3後	2		1	7	6	7				
	精神療養生活支援実習	3後	2		1		1	2	1			
	災害看護支援技術演習	4通	1		1	1						
国際看護フィールドワーク	4通	1		1	1							

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	身体 <small>のしくみと働き</small>	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
		人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	疾病 <small>からの回復過程</small>	疾病と治療Ⅰ	1後	2								1
		疾病と治療Ⅱ	1後	2								2
		疾病と治療Ⅲ	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
	健康 <small>と生活</small>	生活健康論	1前	1		1						
		精神保健	2前	2		1						
		疫学	2後	2								1
		保健行動論	1後	2			1					
	社会 <small>保障と健康政策</small>	社会保障制度	1後	2								1
		国際保健学	2前	2								1
		保健統計学	2後	2								1
		医療と経済	3前	2								1
		保健行政論	1後	2								1
	看護 <small>の基盤</small>	看護概論	1前	2		1						
		看護の歴史	2前	2								1
		生活支援論	1前	2		1						
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1			1					
		看護と倫理	2前	2		1						1
		コミュニケーション論	1後	1				1				
		初期実習Ⅰ(生活をみる)	1前	1			9	7	6	7		
		初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	1前	1			9	7	6	7		
	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1前	1			9	7	6	1			
	療養 <small>生活支援看護</small>	療養生活支援論(成人・高齢者)	2後	2		2						
		フィジカルアセスメント	1後	1		1	2	1				
		生活支援技術演習	2前	1		1	2	1				
		看護治療技術演習	2前	1		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習Ⅰ	3前	3		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習Ⅱ	3前	2		1	1	1	1			
		療養生活支援基礎実習	2後	2		1	7	6	7			
		療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)	3後	2		2	1	1	1			
		療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)	3後	2		2	1	1	3	1		
		療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題)	3後	2		1	1		1	1		
	女性 <small>の健康と成育支援看護</small>	女性の発達課題と健康	2後	1			1					
		母性生活支援技術演習	3前	2		1	1	1	2			
		母性生活支援実習	3後	2		1	1	1	2	1		
成育生活支援論		2後	1		1							
成育療養生活支援技術演習		3前	2		1		2					
コ <small>ミュニティにおける継続的な看護</small>	在宅療養生活支援論	2前	1		1							
	在宅療養生活支援技術演習	2後	2		1			1				
	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2		1							
	精神健康と生活支援	2後	1		1			1	2			
	精神療養生活支援技術演習	3前	2		1		1	2				
	家族の健康課題と生活支援	2前	1		1							
	産業保健論	2後	2			1						
	学校保健論	2前	2								1	
	グローバルヘルスと国際看護	4前	2			1						
	災害看護支援論	2後	2		1							
	在宅療養生活支援実習	3後	2		1	7	6	7				
	精神療養生活支援実習	3後	2		1		1	2	1			
	災害看護支援技術演習	4通	1		1	1						
国際看護フィールドワーク	4通	1		1	1							

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康予防の推進と看護	地域生活支援論	2前	2			1					
		地域生活支援技術論	3前		2							
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1		1	1		1		
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1		1	1		1		
		健康教育論	2後		2		1	1		1		
	看護の探求と統合	看護研究法	3前	2			1					
		課題研究	4通	2			9	7	6	7		
		キャリアマネジメント	2後	1								1
		看護政策	4後	1								1
		看護システムマネジメント論	3前	2								1
		看護管理実習	3後	2			1	7	6	7		
	助産師コース	統合実習	4通	3			9	7	6	7		
		地域生活支援実習	4前		5		1	1		1		
		助産概論	3前		2		1	1				1
		周産期医学	3前		2							
		助産診断・技術Ⅰ	3後		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅲ	4前		2		1		1			
		助産技術演習Ⅰ	3後		1		1	1	1	2		
	助産技術演習Ⅱ	4前		1		1	1	1	2			
養護教諭コース	助産管理論	4後		1		1	1					
	助産実習	4前		11		1	1	1	2			
	養護概説	2後		2							1	
小計(82科目)	健康相談	3前		2							1	
	養護実習	4前		5							1	
合計(134科目)		-	109	136	0	10	7	6	7	2	15	

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康予防の推進と看護	地域生活支援論	2前	2			1					
		地域生活支援技術論	3前		2			1	1		1	
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1		1	1		1		
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1		1	1		1		
		健康教育論	2後		2		1	1		1		
	看護の探求と統合	看護研究法	3前	2			1					
		課題研究	4通	2			9	7	6	7		
		キャリアマネジメント	2後	1								1
		看護政策	4後	1								1
		看護システムマネジメント論	3前	2								1
		看護管理実習	3後	2			1	7	6	7		
	助産師コース	統合実習	4通	3			9	7	6	7		
		地域生活支援実習	4前		5		1	1		1		
		助産概論	3前		2		1	1				1
		周産期医学	3前		2							
		助産診断・技術Ⅰ	3後		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅲ	4前		2		1		1			
		助産技術演習Ⅰ	3後		1		1	1	1	2		
	助産技術演習Ⅱ	4前		1		1	1	1	2			
養護教諭コース	助産管理論	4後		1		1	1					
	助産実習	4前		11		1	1	1	2			
	養護概説	2後		2							1	
小計(82科目)	健康相談	3前		2							1	
	養護実習	4前		5							1	
合計(134科目)		-	109	136	0	10	7	6	7	2	15	

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】
<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づく教育をより推進するために「仏教Ⅰ(瞑想)」を「和の精神Ⅰ」、「仏教Ⅱ(写経)」を「和の精神Ⅱ」に改称 ・教育効果の向上を図るため、「生命の科学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「現代思想入門」の配当年次を「1後」から「1前」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「法学入門」の配当年次を「1後」から「1前」に変更 また、教育内容の充実のため、兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「ジェンダーの社会学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「現代日本の文化と社会」の配当年次を「1前」から「1後」に変更 ・教育内容の充実のため、「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の兼任・兼任の教員数を「2」から「3」に変更 ・教育内容の充実のため、「情報処理演習Ⅰ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更 ・履修の機会を拓げるため、「情報処理演習Ⅱ」の配当年次を「1後」から「1前後」に変更 また、教育内容の充実のため、兼任・兼任の教員数を「1」から「3」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「先端技術」の配当年次を「1後」から「1前」に変更 ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「3」に変更 ・教育内容の充実のため、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更 ・教育内容の充実のため、「疾病と治療Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更 ・教育効果の向上を図るため、「フィジカルアセスメント」の配当年次を「1後」から「2後」に変更

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
65 科目	69 科目	0 科目	134 科目	65 科目 [0]	69 科目 [0]	0 科目 [0]	134 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	科学技術と社会	2	1後	一般	選択	担当者の負担を考慮(次年度開講予定)
2	体育講義	2	1前	一般	選択	担当者の負担を考慮(次年度開講予定)
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 **該当なし**

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講とした2科目は共通教育科目の選択科目として設置しているため、学生の履修、卒業への影響はないと考える。学生への周知は履修要覧等で周知できている。今後については、担当教員のコマ数を配慮の上、検討する。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{2}{134} = \frac{2}{134} = \boxed{1.49} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	四天王寺大学短期大学部(必要面積4,800㎡)と共用 学園内の高等学校廃止による土地移管(元)						
	校舎敷地	0 ㎡	100,141.08 ㎡	0 ㎡	100,141.08 ㎡							
	運動場用地	0 ㎡	30,611.60 ㎡	0 ㎡	30,611.60 ㎡							
	小 計	0 ㎡	130,752.68 ㎡	0 ㎡	130,752.68 ㎡							
	そ の 他	0 ㎡	101,489.32 ㎡ 57,824.32 ㎡	0 ㎡	101,489.32 ㎡ 57,824.32 ㎡							
	合 計	0 ㎡	232,242.00 ㎡ 188,577.00 ㎡	0 ㎡	232,242.00 ㎡ 188,577.00 ㎡							
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	4,058.10㎡ 4,100.96㎡ (4,058.10 ㎡) -(4,100.96㎡)	59,252.75 ㎡ 59,203.82 ㎡ (59,252.75㎡) -(59,203.82 ㎡)	995.41 ㎡ 1,044.34 ㎡ (995.41 ㎡) -(1,044.34 ㎡)	64,306.26 ㎡ 64,349.12 ㎡ (64,306.26 ㎡) -(64,349.12 ㎡)	四天王寺大学短期大学部(必要面積5,200㎡)と共用 【専用】 建設中であった校舎の完成に伴う変更(元) 【共用】および【共用する他の学校等の専用】 併設短期大学部専用研究室の減による変更(元)			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体						
	68 室	64 室	31 室	1 室	0 室							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		申請学部全体 (共同研究室3部屋含む)						
	看護学部 看護学科			31 室								
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本	申請学部全体 再精査の結果、修正(元)					
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種					電子ジャーナル〔うち外国書〕	点	点	点	
		看護学部	4,987 [140] (3,854 [125]) -(3,813 [100])					462 [414] (461 [414]) -(462 [414])	426 [409] (426 [409])	233 (178) -(158)	3,873 (3,840)	33 (33)
		計	4,987 [140] (3,854 [125]) -(3,813 [100])					462 [414] (461 [414]) -(462 [414])	426 [409] (426 [409])	233 (178) -(158)	3,873 (3,840)	33 (33)
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体						
	4,246.44 ㎡	579		310,000 294,000								
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要										
	7,530.06 ㎡	テニスコート	2,953.60 ㎡	武 道 場	1,447.43 ㎡							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子ジャーナル、データベース購入費を含む 再精査の結果、修正(元)			
		教員1人当り研究費等	370千円	370千円	図書購入費	21,600千円	10,800千円	2,450千円				
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	191,483千円 215,000千円	43,508千円 66,600千円	— 千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,860千円	1,660千円	1,660千円	1,660千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、雑収入等										

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	四天王寺大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
人文社会学部	年	人	年次 人 3年次	人		倍		年度	大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
日本学科	4	100	3	406	学士 (人文社会学)	1.21		平成24年度		
国際キャリア学科	4	90	5	370	学士 (人文社会学)	1.19		平成24年度		
社会学科	4	160	5	650	学士 (人文社会学)	1.13		昭和61年度		
人間福祉学科	4	70	15	310	学士 (人文社会学)	0.97		平成18年度		
教育学部			3年次			1.06				
教育学科	4	240	17	994	学士(教育学)	1.06		平成20年度		
経営学部			3年次			1.13				
経営学科								平成20年度		
公共経営専攻	4	40	2	164	学士(経営学)	1.27		平成28年度		
企業経営専攻	4	120	3	486	学士(経営学)	1.09		平成28年度		
看護学部						1.05				
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.05		平成31年度		
大学 の 名 称	四天王寺大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
人文社会学研究科 人間福祉学専攻	年	人	年次 人	人		倍			大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
博士前期課程	2	10	—	20	修士 (人間福祉学)	0.15		平成15年度		
博士後期課程	3	3	—	9	博士 (人間福祉学)	0.66		平成15年度		
大学 の 名 称	四天王寺大学短期大学部									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
保育科	年	人	年次 人	人		倍			大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
生活ナビゲーション学科	2	120	—	240	短期大学士 (保育)	0.97		昭和42年度		
ライフデザイン専攻	2	100	—	200	短期大学士 (ライフデザイン)	1.09		平成13年度		
ライフケア専攻	2	20	—	40	短期大学士 (ライフケア)	0.72		平成13年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学部長) (学科長)	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)
		精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学部長) (学科長)	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)
		精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 真寿美 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
専	教授	福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		生活健康論 看護概論 生活支援論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 真寿美 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
専	教授	福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		生活健康論 看護概論 生活支援論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	小出 恵子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		保健行動論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 産業保健論 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習
専	准教授	坂口 京子 <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	小出 恵子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		保健行動論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 産業保健論 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習
専	准教授	坂口 京子 <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	宮本 雅子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 女性の発達課題と健康 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産概論 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	准教授	吉川 有葵 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	岩佐 美香 <平成31年4月> 修士(人間科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	川田 陽子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		コミュニケーション論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	宮本 雅子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 女性の発達課題と健康 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産概論 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	准教授	吉川 有葵 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	岩佐 美香 <平成31年4月> 修士(人間科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	川田 陽子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		コミュニケーション論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	西元 康世 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	藤澤 盛樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	穂迫 享子 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	講師	松田 常美 <平成31年4月> 修士(医科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	西元 康世 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	藤澤 盛樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	穂迫 享子 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	講師	松田 常美 <平成31年4月> 修士(医科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 看護管理実習 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	入江 眞理 <令和2年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
		加藤 由加 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	西井 尚子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	眞壁 美香 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	入江 眞理 <令和2年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
		加藤 由加 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	西井 尚子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	眞壁 美香 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	松井 博子 <令和3年4月>
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	助教	宮崎 志保 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任	教授	井川 好二 <令和2年4月> 博士(教育学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任	教授	岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士
		仏教Ⅰ(瞑想) 仏教Ⅱ(写経) 薬理学
兼任	教授	奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士
		レクリエーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	松井 博子 <令和3年4月>
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	助教	宮崎 志保 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任	教授	井川 好二 <令和2年4月> 博士(教育学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任	教授	岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士
		和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ 薬理学
兼任	教授	奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士
		レクリエーション論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奥野 暢通 ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		スポーツⅠ スポーツⅡ 体育講義
兼任	教授	笠原 幸子 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		社会福祉概論
兼任	教授	加藤 彰彦 ＜平成31年4月＞ 文学修士
		現代思想入門 構造主義入門 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	教授	木村 三千世 ＜平成31年4月＞ 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	教授	斎藤 敏之 ＜平成31年4月＞ 理学博士
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奥野 暢通 ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		体育講義
兼任	講師	岡部 修一 ＜平成31年4月＞ 学士(体育学)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	脇田 寛史 ＜平成31年4月＞ 博士(社会福祉学)
		社会福祉概論
兼任	教授	加藤 彰彦 ＜平成31年4月＞ 文学修士
		現代思想入門 構造主義入門
兼任	講師	横道 朝子 ＜平成31年4月＞ 博士(フランス文学)
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	教授	木村 三千世 ＜平成31年4月＞ 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	教授	斎藤 敏之 ＜平成31年4月＞ 理学博士
		情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	梅原 恵子 ＜平成31年4月＞ 準学士
		情報処理演習Ⅰ
兼任	講師	酒井 真紀 ＜平成31年4月＞
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	向井 由美子 ＜平成31年4月＞ 学士
		情報処理演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	土居 悟 <平成31年4月> 医学博士
		栄養と代謝 疾病と治療Ⅲ
兼任	教授	仲谷 和記 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学 生物学 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 病態生理学 疾病と治療Ⅰ
兼任	教授	原 順子 <平成31年4月> 博士(社会学)
		障害者福祉
兼任	教授	平川 茂 <平成31年4月> 文学修士
		現代社会と人権
兼任	教授	藤谷 厚生 <平成31年4月> 文学修士
		仏教概説 仏教実践演習 聖徳太子概説 哲学入門 現代社会と仏教
兼任	教授	松本 珠希 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		上級英語Ⅳ(英語論文読解) 疫学 国際保健学
兼任	教授	茂木 洋 <平成31年4月> 教育学修士
		心理学Ⅰ 心理学Ⅱ 臨床心理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	土居 悟 <平成31年4月> 医学博士
		栄養と代謝 疾病と治療Ⅲ
兼任	教授	仲谷 和記 <平成31年4月> 博士(医学)
		生物学 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 病態生理学 疾病と治療Ⅰ 疾病と治療Ⅱ
兼任	教授	原 順子 <平成31年4月> 博士(社会学)
		障害者福祉
兼任	教授	平川 茂 <平成31年4月> 文学修士
		現代社会と人権
兼任	教授	藤谷 厚生 <平成31年4月> 文学修士
		仏教概説 仏教実践演習 聖徳太子概説 現代社会と仏教
兼任	講師	竹中 利彦 <平成31年4月> 博士(文学)
		哲学入門
兼任	教授	松本 珠希 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		上級英語Ⅳ(英語論文読解) 疫学 国際保健学
兼任	教授	茂木 洋 <平成31年4月> 教育学修士
		臨床心理学
兼任	講師	中村 隆行 <平成31年4月> 修士(文学)
		心理学Ⅰ
兼任	講師	田中 秀男 <平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	八木 成和 ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		統計学 保健統計学
兼任	教授	矢羽野 隆男 ＜平成31年4月＞ 文学修士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	教授	梁 先姫 ＜平成31年4月＞ 博士(商学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 ＜平成31年4月＞ 法学修士
		社会保障制度
兼任	准教授	上野 淳子 ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)
		ジェンダーの社会学
兼任	准教授	春名 麻季 ＜平成31年4月＞ 博士(法学)
		日本国憲法 法学入門 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	八木 成和 ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		統計学 保健統計学
兼任	講師	山上 恵 ＜平成31年4月＞ 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 由隆 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	教授	梁 先姫 ＜平成31年4月＞ 博士(商学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 ＜平成31年4月＞ 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		ジェンダーの社会学
兼任	准教授	春名 麻季 ＜平成31年4月＞ 博士(法学)
		日本国憲法 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)
兼任	講師	植田 徹也 ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		法学入門
兼任	講師	高 希麗 ＜平成31年4月＞ 修士(法学)
		法学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	吉田 康成 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	五十川 飛暁 ＜平成31年4月＞ 博士(社会学)
		環境の科学
兼任	講師	坂本 光徳 ＜平成31年4月＞ 博士(人間福祉学)
		社会福祉行政 保健行政論
兼任	講師	武田 盛夫 ＜平成31年4月＞ 社会学士
		老人福祉論
兼任	講師	塚原 和人 ＜平成31年4月＞ 経済学士
		情報システム
兼任	講師	橋本 智也 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		データ収集分析

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	越智 祐光 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	山下 新樹 ＜平成31年4月＞ 修士(人間文化学)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	塩田 正之 ＜平成31年4月＞ 博士(農学)
		生命の科学 環境の科学
兼任	講師	坂本 光徳 ＜平成31年4月＞ 博士(人間福祉学)
		社会福祉行政
兼任	講師	秋山 明子 ＜平成31年4月＞ 博士(保健学)
		保健行政論
兼任	講師	武田 盛夫 ＜平成31年4月＞ 社会学士
		老人福祉論
兼任	講師	塚原 和人 ＜平成31年4月＞ 経済学士
		情報システム
兼任	講師	橋本 智也 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		データ収集分析

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 祐一郎 ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		児童福祉論
兼任	講師	ロバート ケリガン ＜平成31年4月＞ 修士(英語教育法学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任	講師	相原 進 ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	飯田 陽子 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	今中 基晴 ＜令和3年4月＞ 医学博士
		周産期医学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	明石 隆行 ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)
		児童福祉論
兼任	講師	ロナルド バンデン ＜平成31年4月＞ 修士(理学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任	講師	カート ホーバソン ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任	講師	田中 達也 ＜平成31年4月＞ 学士
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任	講師	相原 進 ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	柴 亜矢子 ＜平成31年4月＞ 博士(ドイツ語学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	今中 基晴 ＜令和3年4月＞ 医学博士
		周産期医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡谷 恵子 ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 ＜平成31年4月＞ 修士(経済学)
		政治学
兼任	講師	木原 隆典 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 ＜平成31年9月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 ＜令和2年9月＞ 博士(保健看護学)
		養護概説 健康相談
兼任	講師	南 裕子 ＜令和2年9月＞ 看護学博士
		キャリアマネジメント
兼任	講師	南谷 恵敬 ＜平成31年4月＞ 修士(芸術学)
		仏教芸術入門
兼任	講師	古門 好美 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		学校保健論 養護実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡谷 恵子 ＜令和2年4月＞ 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 ＜平成31年4月＞ 修士(経済学)
		政治学
兼任	講師	木原 隆典 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 ＜平成31年9月＞ 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 ＜令和2年9月＞ 博士(保健看護学)
		養護概説 健康相談
兼任	講師	南 裕子 ＜令和2年9月＞ 看護学博士
		キャリアマネジメント
兼任	講師	南谷 恵敬 ＜平成31年4月＞ 修士(芸術学)
		仏教芸術入門
兼任	講師	古門 好美 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		学校保健論 養護実習

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・岩尾洋兼担教授の担当授業科目名を建学の精神に基づく教育をより推進するために改称
- ・教育的効果を考慮し、奥野暢通兼担教授の担当授業科目「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を岡部修一兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、笠原幸子兼担教授の担当授業科目「社会福祉概論」を脇田寛史兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、加藤彰彦兼担教授の担当授業科目「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」を横道朝子兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、斎藤敏之兼担教授の担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」を梅原恵子兼任講師へ変更
- また、教育内容充実のため、「情報処理演習Ⅰ」の担当教員に酒井真紀兼任講師を追加
- ・教育内容充実のため、「情報処理演習Ⅱ」の担当教員に酒井真紀兼任講師、向井由美子兼任講師を追加
- ・教育内容充実のため、「疾病と治療Ⅱ」の担当教員に仲谷和記兼担教授を追加
- ・教育的効果を考慮し、藤谷厚生兼担教授の担当授業科目「哲学入門」を竹中利彦兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、茂木洋兼担教授の担当授業科目「心理学Ⅰ」を中村隆行兼任講師へ変更
- また、「心理学Ⅱ」を田中秀男兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、矢野野郎兼担教授の担当授業科目「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を山上恵兼任講師へ変更。
- また、教育内容充実のため、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の担当教員に佐藤由隆兼任講師を追加
- ・教育的効果を考慮し、上野淳子兼担教授の担当授業科目「ジェンダーの社会学」を洪ジョンウン兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、春名麻季兼担教授の担当授業科目「法学入門」を植田徹也兼任講師へ変更。
- また、教育内容充実のため、「法学入門」の担当教員に高希麗兼任講師を追加
- ・教育的効果を考慮し、吉田康成兼担教授の担当授業科目「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を越智祐光兼任講師へ変更
- また、教育内容充実のため、「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の担当教員に山下新樹兼任講師を追加
- ・教育的効果を考慮し、仲谷和記兼担教授の担当授業科目「生命の科学」を塩田正之兼任講師へ変更
- また、五十川飛暁兼担講師の担当授業科目「環境の科学」を塩田正之兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、坂本光徳兼担教授の担当授業科目「保健行政論」を秋山明子兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、吉田祐一郎兼担講師の担当授業科目「児童福祉論」を明石隆行兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ロバートケリガン兼担講師の担当授業科目「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」をロナルドバンデン兼任講師へ変更
- また、教育内容充実のため、「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」の担当教員にカートホーバソン兼任講師、田中達也兼任講師を追加
- ・教育的効果を考慮し、飯田陽子兼任講師の担当授業科目「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」を柴亜矢子兼任講師へ変更

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
10	7	6	7	30	9	6	6	5	26
(9)	(6)	(6)	(5)	(26)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
10	7	6	7	30	10	7	6	7	30
[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	6 名	6 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{26} = \boxed{23.07} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由 **該当なし**

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)			②の合計数(b)			③の合計数(c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)			②の合計数(b)			③の合計数(c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
認 可 時 (平成30年8月)	入学時の新入生オリエンテーションや各学年の履修ガイダンス等で、保健師コースを希望する学生の不利益とならないよう、養護教諭2種免許状を取得するために必要な、教育職員免許法施行規則第66条の6で定める4科目を明示し、丁寧に説明を行うこと。	遵守事項 履修要覧に、保健師コース希望の学生が養護教諭2種免許状を取得するためには、教育職員免許法施行規則第66条の6で定められている4科目を修得する必要があることを記載するとともに、新入生オリエンテーション及び履修ガイダンス等にて、丁寧に説明した。	履行済 各学期の開始時に実施するオリエンテーションなどで、引き続き丁寧に説明していく。	
	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	遵守事項 完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するように方針を固めた。	履行済	左記の方針に基づき、採用計画をすすめる。
	教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時まで確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項 教員の補充を必要とする科目は、令和3年度に開講される科目のため、開講に向けて準備をすすめている。	履行中	令和2年度早期のAC教員審査を受け、専任教員を確保する。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	特記事項なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学看護学部は、平成31年4月1日付けで開設された。平成31年4月16日の看護学部教授会において、看護学部FD委員会の設置が承認された。（規程については、5月看護学部教授会にて審議予定。）構成員は、委員長1名、副委員長1名、委員5名の合計7名である。また本委員会の委員長は、大学全体FD委員会の委員としても任命され、これによって大学全体と看護学部の連携・協同体制が取られている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

第1回看護学部FD委員会を、平成31年4月23日午後13時15分～14時15分、9号館カンファレンスルーム5において実施した。7名中6名の教員が参加した。なお、第2回の委員会は、令和元年5月20日に開催予定。

c 委員会の審議事項等

本委員会が分掌する事項は、FDに関わる授業内容、方法および評価、授業の改善、その他FDの目的を達成するために必要な事項について企画立案し、活動を推進することである。第1回看護学部FD委員会では、①シミュレーション教育に関する研修と、②本年度のFD委員会の活動計画について審議を行った。

② 実施状況

a 実施内容

1. シミュレーション教育研修

(1) 第1回シミュレーション研修（基礎編）を令和元年5月20日に予定。

これは、全看護教員を対象として、シミュレーターの一次救命に関するモデルについての特徴と、使用方法の基本を習得する内容を計画した。

(2) シミュレーターを用いた模擬授業（第1回コードブルーセミナー）を令和元年5月24日、27日、31日の3回にわたり、実施することを計画している。

本セミナーは、看護学部の学生のうち希望者を対象とし、前述の第1回シミュレーション研修（基礎編）で教員が習得した内容を用いて、学生に対して模擬授業を実施予定。模擬授業の実施、ならびに教員間での実践の振り返りを通して、シミュレーション教育の教授法の向上を図ることを目的としている。

(3) 第2回シミュレーション研修（看護教育への応用）を令和元年9月前後に計画している。全看護教員を対象とし、実際に看護教育にシミュレーターを取り入れている大学の教員を講師に招き、看護教育への活用方法について講演・演習を行なう内容として計画中。この研修の目的は、講演・演習をとおりて教員が各領域の授業設計への活用を図ることである。

(4) 第3回以降の研修目的は、各シミュレーターについて、教員それぞれがその取り扱い方法を習得し、授業に活用し、適切な教育が行えることを目標に、教育プログラム（トレーニングコースと再履修コース）の実施を計画している。

2. その他のFD研修

学生のアクティブラーニングを促す教育技法（仮）等に関する研修会を後期に予定している。

3. SD研修 テーマ「大学職員の近未来 高度化・多様化する職員」（事務局全体研修）

b 実施方法

1. 実施に当たっては、全看護学部教員が参加可能な日時を選び、授業・演習等の方法を取り入れ、研修内容が実際の授業内容・方法に活用できる方法を用いる予定である。

2. 実施に当たっては、全看護学部教員が参加可能な日時を選び、授業・演習等の方法を取り入れ、研修内容が実際の授業内容・方法に活用できる方法を用いる予定である。

3. 外部講師による講演及びワークショップ

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 令和元年5月1日の段階では、教育研修等は計画立案を行ったところであり、実施はこれからとなる。
2. 令和元年5月1日の段階では、教育研修等は計画立案を行ったところであり、実施はこれからとなる。
3. 平成31年2月7日実施 参加者：役員・事務職員（76名）教員（1名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

現段階では研修は計画中であり、改善は計画を実施した結果に基づき行う予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成31年4月4日より授業が開始し、1年生に対する看護専門科目として、「生活健康論」「生活支援論」「ライフサイクルにおける発達課題と健康」「看護概論」の4科目の教育を実施しているところである。全科目において、各授業終了時に、記名でのリアクションペーパーの記載を依頼し行っている（授業内容・方法に関する質問や意見、授業を受けた感想等を記載）。

学生の記述を通して、初学者ならではの入学時の戸惑いや不安、意欲を伴う感情や、授業内容に関する理解・疑問点を含む率直な意見を得ることができ、学生理解に役立てている。同時に、記述内容については担当教員間で共有しあい、学生理解に役立てると同時に、次の授業時に学生の質問に対して回答したり、補足説明が必要な内容については、授業内容に含めたりするなど、即時的に教育内容に反映している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

前述したリアクションペーパーの記述内容は、個々の学生の成績評価には影響しないことを保証し、また学生の了解を得て、複数の担当教員間で共有し、教育内容・方法等の検討資料としている。加えて、記述内容が授業改善に向けて、どのように反映されているかを含め、次の授業時間でフィードバックを行っている。

なお、ペーパー自体は効率的な学習状況の把握および出席管理を兼ねて用いていることから記名としているが、匿名であっても公表を希望しない場合は、その旨を申し出るよう併せて説明を行ない、学生のプライバシー確保に努めている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

四天王寺大学の教育理念は、聖徳太子の敬田院設立の精神（仏教精神）を基本とし、「すべての人が、他者および自身の善さを信じ、自ら進んで宗教的情操を涵養することで人格の陶冶を図りながら、広範にして深い知識と高い技術・技能を修得し、理想的な世界についての未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える修行を行う」ことであり、看護学部（学科）では高度な知識と技術を身につけ、少子・超高齢化社会の中で人とのつながりを大切に、人間の命と尊厳を尊重し、住み慣れた地域で暮らす人々の健康と生活を支援する「ケア」のプロフェッションを育成することにある。

看護学部（学科）は、本年4月に開設し、第1期生として84名の学生を迎え入れた。

開設して間もない現時点において教育・研究の成果の評価を行うことは出来ないが、細部にわたるオリエンテーションや学内見学ツアーの実施、担任とチューター制による支援体制の構築、大学基礎演習（看護基礎ゼミ）の説明等を通じて、看護学部での「学び」を伝え、4年間の学修に対する動機づけを行い学生生活がスタートしている。

今後も設置計画を確実に履行すべく努力を積み重ね、学生の確保と聖徳太子の仏教精神に基づく優れた教育を進めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成27年度自己点検・・・（学内・学外）平成27年6月30日公表

令和元年度自己点検・・・（学内・学外）令和元年5月下旬予定

※ 自己点検・評価シートを作成予定

b 公表方法

平成27年度自己点検・・・（学内）「自己評価報告書」を各部署・全専任教員へ平成27年6月30日配付

（学外）「自己評価報告書」を本学ホームページに平成27年9月15日を掲載

令和元年度自己点検・・・（学内・学外）「自己点検・評価シート」をホームページにて令和元年6月上旬に掲載予定

③ 認証評価を受ける計画

令和4年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受審予定。

（現在の認証期間は、平成27年4月1日～令和5年3月31日）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元 年 8 月 末 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。